

2005年10月25日

日産自動車株式会社
株式会社エフエム東京

日産自動車とエフエム東京、デジタルラジオと「カーウイングス」の連携による共同実験を開始

日産自動車株式会社(本社:東京都中央区銀座、社長:カルロス ゴーン)と株式会社エフエム東京(本社:東京都千代田区 社長:富木田 道臣)は、2006年に放送開始を予定しているデジタルラジオ放送に備え、通信と放送との融合による新たな顧客サービスの可能性を探るため、日産自動車のテレマティクスサービス「カーウイングス」を利用した共同実験を開始する。

今回の共同実験では、以下の3つの項目を主な領域としている。

- 1) 車室内における新しいカーラジオ視聴のあり方についての研究
- 2) デジタルラジオを活用した、魅力的な情報提供コンテンツの研究
- 3) データ放送を活用した地域密着型の情報提供サービスの研究

ラジオ放送のデジタル化に伴い、音質は従来に比べて飛躍的に改善される。また、音声放送と同時に画像を含む大容量のデータ放送も可能となる。さらに通信を用いることにより、視聴者と放送局が相互に情報を提供し合うことも可能になる。これらの特徴により、従来では実現できなかったさまざまなサービスの提供が可能となる。しかしながら、これらの新たなサービスを実現するにあたり重要なのが、サービスの提供が運転の妨げにならないことである。

今回の共同実験では、エフエム東京が持つ豊富な放送ノウハウに基づくサービスアイデアと、日産自動車を持つ自動車HMI (Human Machine Interface) 技術を活用させることにより、車室内における新しいカーラジオ視聴のあり方を検討していく。

具体的には、デジタルラジオ放送の特長であるデータ放送を活用して、視聴者が、ラジオ番組で紹介された音楽をその場で購入し、カーオーディオの HDD にダウンロードできるというようなサービスも可能となる。このような、デジタルラジオ放送を活用した、より魅力的なサービスの提供について研究を行う。

さらに、地域に密着している FM ラジオ局の強みを利用し、ドライバーが必要とするさまざまな地域の情報を「カーウイングス」で仲介することも可能になる。その結果、より快適なドライブをサポートするとともに、ドライバーの消費行動等を通じて、地域振興への貢献も期待できる。このようなビジネスモデルについての共同研究も行う。

今後両社は、デジタルラジオと「カーウイングス」の連携を発展させ、より快適なドライブをサポートする新たなサービスやビジネスモデルの検討を共同で推進していく。

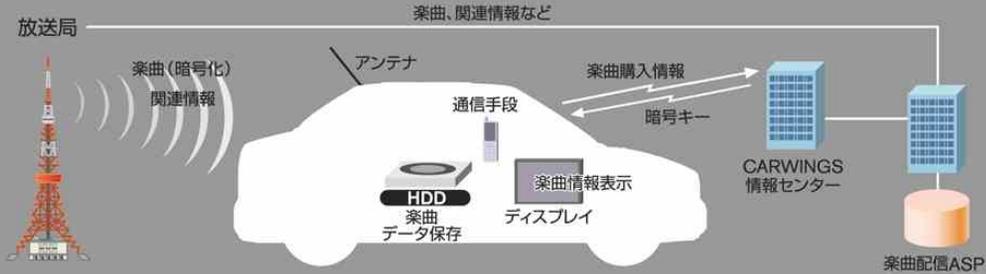
なお、今回の取り組みについては、明日より開催されるWPC EXPO (会期: 10/26-29 会場: 東京ビッグサイト)の日産自動車ブースにて公開実演される。

以 上

【サービスイメージ例1】音楽配信サービス

リスナーと音楽がつながる

ドライブ中のエンタテインメントは耳から。
デジタルラジオで流れた音楽をカンタンに購入することができます。
デジタルラジオは新たな音楽流通を切り開きます。

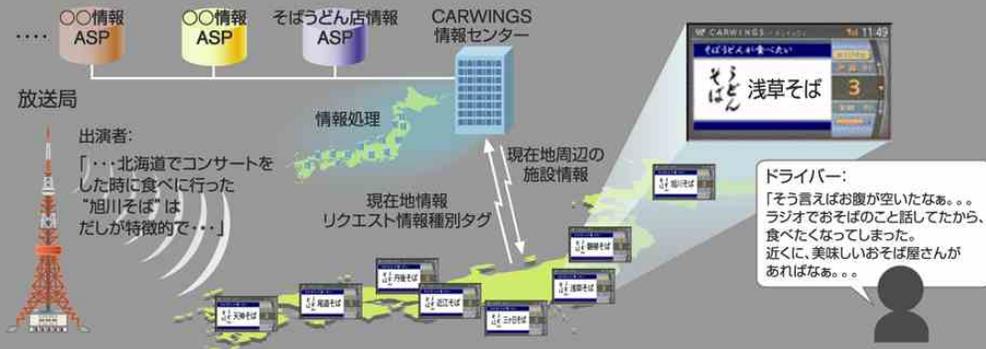


※このイラストはサービスイメージです。

【サービスイメージ例2】周辺の情報提供サービス

土地とつながる

番組内での話題やCMに関連した情報を「いまいる場所」に合わせて提供。
たとえば、番組でおそば屋さんについて話していると・・・
そのおそば屋さんを目的地に設定したり、「いまいる場所」から近くにあるおそば屋さん情報を配信。

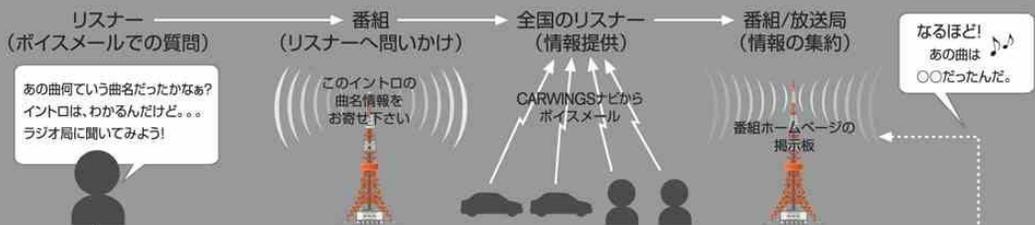


※このイラストはサービスイメージです。

【サービスイメージ例3】参加型情報共有サービス

全国のリスナー同士がつながる

ラジオはリスナーとパーソナリティーの2WAYが持ち味。デジタルラジオはデータ放送や、
ボイスメールを使ってリスナーとの距離をもっと身近にします。



※このイラストはサービスイメージです。

◎エフエム東京と日産自動車の共同実験について

エフエム東京と日産自動車は、放送による情報伝達の効率性と、通信によるパーソナル性を効率的に組み合わせ、より快適なドライブシーンをサポートする新たなサービスとビジネスモデルの検討を共同で推進し、もとより親和性の高いラジオと自動車の関係をデジタルラジオによってより緊密な関係へと発展させる。

この実験は、エフエム東京は、デジタルラジオのデータ放送ノウハウとそれを活用した車載受信機向けサービスアイデアを提供、日産自動車は、通信による車向け情報提供サービス（カーウイングス）のノウハウと自動車HMI（ヒューマン/マシン・インターフェース）技術を提供する。両者が組み、デジタルラジオとテレマティクスを融合させた次世代カー・コミュニケーションのサービスを実証実験番組を通じて研究する。

デジタルラジオを使えば、データ放送の帯域を、一斉同報により、データダウンロードさせる流通経路として利用することができる。自動車などの移動体に通信システムを組み合わせ、リアルタイムに情報サービスを提供する「テレマティクス」は、「自動車のIT化」とも評されるもので、リアルタイムの交通情報やナビゲーション、盗難時の自動通報、故障時の工場への連絡、近辺の店舗や施設の案内、音声によるガイダンスなど様々なサービスが展開されている。この様々な情報の配信部分を、デジタルラジオを使うことにより、よりローコストで効率よく行うことができ、その配信データをテレマティクスと組み合わせることにより、より利便性のある情報提供が可能となることを実証する。さらに、楽曲ダウンロードや“リスナーと番組”“リスナー同士”“リスナーと地域”を結ぶ双方向性の向上など、デジタルラジオによって実現可能なサービスをも実証する。

実験の目的は、

- ・ デジタル放送という新たな伝送路の特性を活かした機能が通信と連携することによって、そのサービスが車内の双方向性や利便性、娯楽性がいかに向上するか。
- ・ そのサービスを実現させるための放送技術とシステム構成、受信機のインターフェースの理想的な姿はどうあるべきか

について実験番組とデモ受信機を通じて検証する。

◆デモ番組に於ける車載機向けユニークサービスの内容

1. 画像表示（データ放送で送る画面の表示）

音声とともに送るデータ放送をカーナビゲーションに表示、楽曲のダウンロードやPOI（地図表示と誘導）、双方向のクイズやボイスメール送信等の操作を補完する

2. 位置情報の送信・誘導（POI）“リスナーと地域を繋ぐ”

番組で紹介する店舗などの位置情報をデータ放送で送り、画面表示、目的地設定も可能とする

3. ボイスメールの送信（コミュニケーションツール）

“リスナーと番組を繋ぐ”“リスナーとリスナーを繋ぐ”

リスナーがメッセージを車載機に録音、通信で放送局に送信する。乗車中のリスナーでも気軽に番組に参加できるツール。

4. 楽曲ダウンロード（楽曲購入）

放送中の楽曲をワンアクションでダウンロード、通信で暗号解読キーを購入して楽曲を再生する

5. テレマティクスとの連携

データ放送で送る情報タグと現在地情報を、受信機がデータセンター（カーウイングスセンター）に送信、現在地周辺の施設や店舗情報を案内する

例）ガソリンスタンドのCMを情報タグを付与して放送すると、車載機がデータセンターにアクセス、センターは周辺のガソリンスタンドの（エリア価格相場）を車載機に返信することにより、ドライバーは付加価値情報を得ることができる

●両社のデジタルラジオへの取り組み

[デジタルラジオ・ニュービジネス・フォーラム]

エフエム東京の呼び掛けにより集った有志企業（80社余）が、それぞれの目指すビジネス実現の目的でワーキンググループを組み、デジタルラジオのサービス&ビジネスモデル研究、受信機仕様・開発に取り組んでいる。

[車載機連携ワーキンググループ]

デジタルラジオ・ニュービジネス・フォーラムのワーキンググループのひとつ。日産自動車ワーキンググループのリーダー社となって、エフエム東京をはじめカーナビメーカー、コンテンツプロバイダら数社が集い、放送と通信の連携サービスの検討及び車載デジタルラジオ受信機の仕様検討を行っている。

[エフエム東京／日産自動車の共同実験番組]

05年2月から4月にかけて、デジタルラジオの生放送による非公開共同実験番組を実施した。実験の目的は、デジタルラジオのサービスと受信機インターフェースの検証。双方向性をテーマにボイスメールや楽曲ダウンロード、ブックマークといった原型サービスの受容性と、操作性と安全性について、HMIの観点から検証した。共同実験は、エフエム東京のデータ放送技術協力のもと、(株)ネクストウェーブがアプリケーションを開発、日産自動車開発による試作受信機でデジタル放送を受信し検証した。